

春うららかな4月20日(土)、京都伏見において、第3回定例懇談会が、はるばるカナダから参加頂いた齊藤OBや東京から駆けつけて頂いた小西陽一郎OB、永末OB、地元長岡京市から参加頂いた袖岡OBの4人の新参加者を始めとし、24名の参加のもと開催されました。

<参加者> 敬称略

白石 英也(S32経)、齊藤 智(S36経)、上田 尚弘(S38法)
清浦 奎明(S38商)、山本 恒徳(S38経)、増田 登(S40商)
由良 豊一(S40商)、相本 琢郎(S41法)、酒井 克己(S42法)
服部 卓司(S42商)、松尾 哲雄(S47経)、松本 文一郎(S50文)
青嶋 義晴(S52工)、袖岡 稔(S55商)、小西 陽一郎(S58政)
阪本 光宏(S61商)、永末 一朗(S61経)、小堀 誠(S63商)
竹崎 誉(H02法)、豊田 秀明(H03理)、浄住 徹朗(H05経)
兵藤 公治(H10理)、宮崎 博(H16経)、松永 修(S58工)

I 伏見歴史散策

今回のテーマは<学ぶ>。古都京都にあって常に時代の変化の起点となった伏見で、皆様と共に多くの事を学ぶ事が出来ました。

【第1部】寺田屋見学(12:30~12:50)

最初に訪れたのは、<寺田屋遭難>の舞台となった寺田屋。

慶應2年(1866年)1月23日、この寺田屋に、京での薩長同盟の会談を斡旋後に薩摩人として宿泊していた坂本龍馬を、伏見奉行林肥後守忠交の捕り方が捕縛ないしは暗殺しようとした。坂本龍馬は、刀傷を負いましたが、女将お登勢の機転によりなんとか寺田屋を脱出することが出来、その後、無事薩摩藩に保護されました。

坂本龍馬が愛用していたという梅の間(図1)には、坂本龍馬の肖像絵が掛けていました。(写真1)

その肖像絵を見ていると、決して広くはない梅の間で、坂本龍馬が同志達と諸外国に負けない<明日の日本>を造るために激論を交わした姿が、脛に浮かぶようでした。

また、その四年前には寺田屋で、文久2年(1862年)4月23日に倒幕の挙兵を決行しようとする薩摩藩急進派と薩摩藩主島津久光の差し向けた鎮撫士の間で切り合いとなり、急進派九名が犠牲になった<寺田屋事件>が起っています。

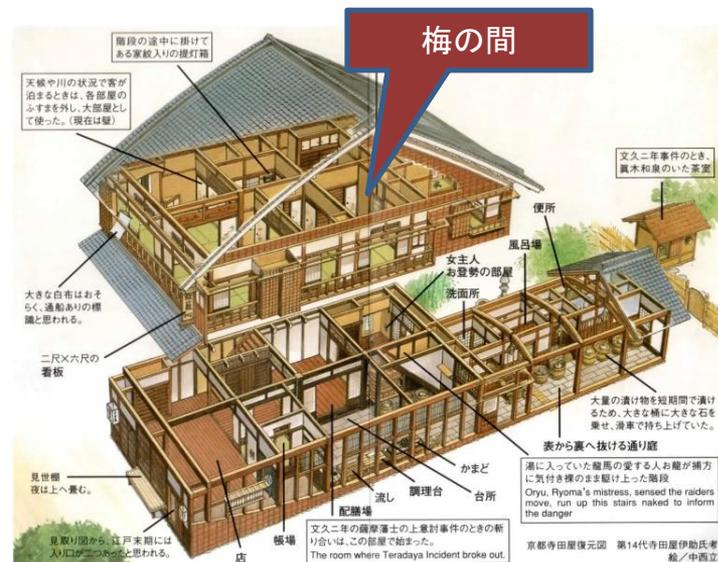


図1. 寺田屋間取り



写真1. 寺田屋 梅の間にて

寺田屋の玄関先の庭には、<寺田屋事件>で命をおとした急進派九名の志士を称える薩摩九烈士碑と坂本龍馬の銅像が有り、一同で記念写真を撮りました。(写真2)

寺田屋を出て、酒蔵を改装した店構えで有名なく鳥せい本店>で昼食を楽しみました。酒処だけあって、生の原酒が大変好評でした。

【第2部】 十石舟遊覧(14:20~15:15)

酒蔵の街を流れる宇治川派流を、伏見長建寺から伏見港公園・伏見みなと広場まで、十石舟で片道15分かけて遊覧しました。(図2)

あいにく小雨が降るぐずついた天気でしたが、かえってそれが伏見の蔵街とマッチし、何とも言えぬ旅情を感じる遊覧になりました。(写真3)



写真2. 寺田屋 薩摩九烈士碑前にて



図2. 十石舟遊覧ルート(→印)



写真3. 十石舟 船着き場

【第3部】月桂冠大倉記念館見学(15:30～16:30)

今回の〈学ぶ〉ツアーのメインイベントである月桂冠大倉記念館の酒香房(写真4)で、日本酒を造る全行程や酒器を見学しました。(写真5)

その説明の中で、青木館長から

- ①清酒→吟醸酒→大吟醸酒の違いは、原料の米の脱穀の度合いに拠る
- ②伏見の酒はまろやか(女酒)・灘の酒はキリリとした味(男酒)と言われるのは、灘の酒の方が石灰質の地層で地下水が濾過されるため、仕込み水にミネラル分がより多いため
など、我々日本酒が好きな割には知らなかった事を、教えて頂きました。
また、伏見でまろやかな日本酒が造られるようになった理由は
- ①伏見の水・・・ミネラル分が適量で、きめ細かくまろやかな味の日本造りに適していたこと
- ②京都の風土と地理・・・京の底冷え。経済的發展。
- ③伝統の技・・・秦氏など造酒司が、酒造りに専念の三点が挙げられるとのことでした。

伏見酒の製造は、単に技術的なものだけでなく、伏見や京都の街の奥深い歴史が生んだものであることを再認識しました。またその技術においても、酵母菌という生物をコントロールできるソフトが、昔から改良を加え現在まで脈々と受け継がれているところに、技術の伝承の重要性を痛感しました。

【第4部】懇親会(17:30～19:30)

お待ちかねの懇親会を、がんこ京都駅ビル店で開催しました。

由良会長のご挨拶(写真6)の後に、今回は趣向を変えて、新しく参加された方を始めとして、多くの出席者から自己紹介を頂きました。

今回は特に、遠くはカナダや東京から出席頂いており、皆様の近況話など話題は絶えることが有りませんでした。

最後に、増田会長補佐から、女酒・男酒／伏見・京都を例に挙げ、ライバル(好敵手)に就いての話が有りました。

慶應と早稲田は一方だけでは成り立たない。お互いに刺激しあいながら成長して来た。寮和会も、本部と関西は一種のライバルである。切磋琢磨をしつつ発展したいものだ。〈頑張ろう三唱！〉で懇親会を締めました。



写真4. 月桂冠大倉記念館 酒香房にて



写真5. 酒香房の大樽

II 記者雑感

寺田屋では、坂本龍馬が維新の画策を行い、拳句には命まで狙われ、九死に一生を得た梅の間を訪れることが出来ました。

今、政治の世界では、<維新>なる言葉が花盛りですが、個人や組織の思いではなく、本当に、世界の中での日本のあるべき姿を希求し、立場立場で事に当ることが重要だと痛感しました。その為には文字通り命がけで行う事もあるでしょう。その先に真の<維新>があると、坂本龍馬像を前に思いました。

次に月桂冠大倉記念館では、酒造りの現場の一端を拝見しました。記者は、京都生まれで、今も京都市に住んでいるのですが、古都京都で伏見酒に代表される伝統的なモノづくりが脈々と受け継がれ、発展していることを誇りに思います。伏見酒を日本の宝として、これからも愛飲していきたいと思えます。

今回の企画も本当に素晴らしいものでした。事業担当幹事ご苦労様でした。<一味違う同窓会>に着実に成長していると自負しています。

III OFF-TIME

前回の由良会長に引続き、今回増田会長補佐の<OFF-TIMEの楽しみ方>をインタビューしましたので、紹介させていただきます。(写真7)

中学・高校・大学では<趣味>は球技(庭球・卓球・野球)を自らプレーすることでした。時の運動部・体育部・同好会などで汗を流したものです。社会人では<趣味>は総合商社の仕事柄 海外旅行・語学・ドライブ・ゴルフと多彩でした。今やドライブ・ゴルフはすっかり卒業し 海外旅行も加齢で極力控えるようになりました。目下履歴書欄に表すとすれば<趣味>は◎読み・◎書き・◎算盤(数字)です。即ち・・・

◎読み(テーマを絞っての乱読派ではなくて多読・熟読が主体)

◎書き(コラム・エッセイ 紛いの執筆が主体)

◎算盤(中高大のキャリアは 銀行委員長・数学研究部長・自治会財務局長が主体)

上記の通り古稀を境にして<趣味>に関しては完全にリセットしました。

数多い同窓会も<一味違う集い>だけを意識して選択しております。例えば・・・

<公立中高一貫6年間で共有した同期会>

<海外駐在地で同時代に苦楽を共にした大使館・商社駐在員家族会>

<親戚一同にての三都(京阪神)持回りの年賀会> 等等・・・

何れも<一味違う同窓会>の類です。一事で言うなら何かが違う！何かを得る！そんな集まりの構築を常に目指しています。それは自身だけでなく参加された方々にもそんな喜びの機会として共有する場を提供することに寄与することではないでしょうか！

しかも自身没後に<一味違った奴>だったと云われれば本望でしょうね！！

と結ばれました。

以上



写真6. 由良会長からご挨拶



写真7. <一味違うスピーチ>を常に心がける増田さん